

事業名	日本語教育事業 <HGむつみ日本語教室>	
分類	人材育成	
協力団体	1) チェイ小学校 2) 協力小・中学校 3) 協力企業	
活動理由	<p>現地の多くの人々から日本語教育支援の強い要請を受けた。カンボジアの8割を占める農民は非常に貧しく、そのため、子どもを手放さざるを得ない家庭が多くあった。子ども達が成長しても就職は困難を極めており、もし、日本語が話せたならば、ホテル、レストラン、ガイドと仕事が見つかる可能性は高く、それが日本語教育開講の希望が寄せられた理由であった。ハート・オブ・ゴールドのカンボジアでの日本語教育のための派遣教員として、2000年9月から松尾睦先生がシェムリアップに派遣された。現地調査の結果、シェムリアップの最も貧しい地区の一つであるチェイ小学校内において、2001年6月より自立のために無料の日本語教育を始めた。HGは2002年には、チェイ小学校校内に独立した日本語教室を建築して、現在では4クラスが毎日1時間ずつ日本語を学べるようになった。</p>	
活動概要 (本年度のHGむつみ日本語教室)	<p>1. 人数: 「さくら組」(10名) 「ふじ組」(10名) ひまわり組(11名) 「つばき組」(21名) 計52名</p> <p>2. 時間: 月曜日～金曜日午前8時～9時、午後12時20分～15時</p> <p>3. 内容: さくら組(日本語検定1級・2級目標) ふじ組(検定3級目標)</p> <p><u>日本の学校との交流</u> (10年目)</p> <p>日本の学校からの支援物資(手作り日本語教材、手作り遊び、手作りカレンダー、手作りかばん、文房具等)を送ってもらい、日本語教室内は日本からの心のこもった教材や掲示物で飾られている。</p> <p>2008年より岡山学芸館高等学校の高校生が研修旅行として、シェムリアップで数日滞在して、HGむつみ日本語教室や学芸館高校留学生の家庭訪問等をして研修の機会を得ている。現地での子供同士の交流や地域の方々との交流も大変温かい雰囲気になされ、自分の目で見て、耳で聞いて、肌で感じているいろいろなことを素直に受け入れ、大変有意義な交流になっている。</p> <p style="text-align: center;"><u>現地訪問・物資支援</u></p> <p>12月3日: HG有森裕子代表理事やHGツアーの皆様130名と岡山学芸館高等学校の森校長先生ご夫妻と親学の皆様の教室訪問、交流。支援物資を多数贈呈。</p> <p>12月17日: 岡山学芸館高校生36名と先生3名の皆様が、日本語教室訪問・交流。学芸館高校や西大寺小学校などから文房具等支援物資贈呈。</p> <p>12月28日: 岡山県国際課主催プロジェクトで高校生・大学生6名と引率者2名の皆様が日本語教室訪問交流。大学生の日本の踊りで大変盛り上がった。</p> <p>① 7月14日から16日まで全国一斉に行われた今年度の高等学校卒業試験に、さくら組の10名が受験し、全員が合格しめでたく高等学校を卒業することができた。</p> <p>② 10月24日(日)シェムリアップで「アンコールワット日本語コンクール大会」が初めて開催され、67名の参加者の中から朗読の部でHG睦日本語教室から5名(全体で9名選考)が選ばれた。審査の結果、朗読・9年生以下の部で、「ももたろう」を朗読したルト・ステンティアラー君(14歳、男子、日本語学習歴2年目)が優勝した。</p> <p>③ 榊タダノ様とタダノハートフルポケット会員よりの支援(2010年～2013年)が始まった。</p> <p>④ 姫路東ロータリークラブより多くの絵本と色鉛筆40セット等の贈呈。</p>	
次期実施計画	<p>毎年の岡山学芸館高校への留学は、2010年度はカン・ナムアオイ(4期生)が選ばれ、ハート・ペアレント(留学里親)の支援のもとに充実した留学生活を送ることができた。2011年度は、テン・ワンニダー(5期生)が決定。彼女の留学里親も募集中。チョンパー(3期生)が補助教員として松尾先生のもとで日本語教師を目指して勉強中。将来はカンボジア人による教室を目指す。</p>	
支援団体	<p>コニシ(株)、銀座ステファニー化粧品(株)、ハート・ペアレント(留学里親)、岡山学芸館高校、榊タダノ、倉敷平成ライオンズクラブ、姫路東ロータリークラブ、個人支援者、岡山市立福島小学校、岡山市立西大寺小学校、御南小学校他 協力校</p>	

